

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（ 東小 ）学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ① 「挨拶」と「落ち着いた生活」に視点を当て、具体的に検討する。
- ② 保護者や地域への広め方や連携について検討する。
- ③ 学校、家庭、地域の代表者として、それぞれの立場を生かしながら、当事者意識を持って話し合いを深める。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・ 地元自治会長やPTA会長、放課後児童会指導者、学識経験者など様々なバックグラウンドのある委員の皆さんがそれぞれの立場からいろいろな意見を出すことで熟議が進み、基本方針に基づいた目指す姿の子供たちへの育て方について理解を深めることができた。
- ・ 学校の基本方針を受け、特に「かかわる力」の育成について活発に意見交換が行われた。学年を超えた子供たちの交流やコミュニケーションスキルのつけ方等について、いろいろな立場の委員から意見を聞くことができた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・ 昨年度からの目標である「挨拶」について、子供たちの挨拶の状況やきちんとした挨拶ができるようにするにはどうしたらよいのか具体的な熟議を進めることができた。実施にあたっては毎月11日を東小あいさつの日とし、協議会委員や自治会役員も参画し、より一層活動に理解を深めた。
- ・ 学校支援活動はボランティアの活動（挨拶運動・ミシンボランティア）により地域の力がいくらか活用されている様子がうかがえた。委員だけでなく、多くの保護者や地域の方々が「気軽に」関与できるところまでもっと話し合えると良かった。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・ コミュニティ・スクールだよりの発行や東小HP、さくら連絡網などで熟議の内容を十分に発信している。また、校外掲示板にグランドデザイン等について掲示し、地域の人誰でも見るようにしてあることは良いことだと思う。
- ・ 学校ホームページやさくら連絡網などを通して十分な情報を発信しているが、地域の人々が学校運営に関わる仕組みがある事をもっと知ってもらう手立てを考えていきたい。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・ 今年度の重点目標であった「落ち着いた生活」については、子供たちの学校での過ごし方の根幹ともいえることであり、家庭や地域でも取り組める点でもあると思うので、来年度も引き続き、重点項目にあげて具体策を実践していくことが大切だと思う。また、アンケート結果から教職員と児童・保護者の意識に大きな差があるので、このギャップを解消するための具体策を検討し実施の方向性を見付ける。
- ・ 「挨拶」については具体的に、地域を巻き込んであいさつ運動を実施している。来年度も目標として継続していくことが大切。